

血液検査の基準値と検査項目説明

- ・ここに記載された血液検査の基準値は国保匝瑳市民病院での基準値です。
- ・基準値は健康と考えられる人の95%が含まれる範囲であり、施設によって多少異なります。
- ・血液検査の結果は年齢・性別・食事・運動など様々な条件で変動します。基準値を外れたものが直ちに異常であるとは言えません。
- ・ここに掲載している検査項目の説明や病名は一般的なものであり、全ての患者様に当てはまるわけではありません。病気の診断は血液検査だけでなく、診察所見や他の検査と合わせて総合的に判断します。
- ・ご自身の検査結果について不明な点や掲載されていない項目につきましては、担当医にご相談ください。



	項目名	基準値		単位	説明
		男性	女性		
蛋白	総蛋白(TP)	6.5-8.2		g/dl	総蛋白とは血液中に含まれる蛋白質の総量。 アルブミンは総蛋白の主要な蛋白質です。 慢性肝炎などで高値、重症肝障害・腎障害・栄養障害などで低値となります。
	A/G比 BCP改良法	1.2-2.2			
	アルブミン(ALB) BCP改良法	3.8-5.2		g/dl	
肝機能	総ビリルビン	0.3-1.2		mg/dl	総ビリルビンは間接ビリルビンと直接ビリルビンの和。 直接ビリルビンは肝障害・胆汁排泄障害などで高値となります。 間接ビリルビンは溶血性貧血などで高値となります。
	直接ビリルビン	0.4以下		mg/dl	
	ALP/IFCC	38-113		U/L	肝臓や胆道、骨などに多く含まれる酵素。 肝臓や胆道系の疾患、骨疾患などで高値となります。
	LD (LDH)/IFCC	120-245		U/L	肝臓、心臓、腎臓、肺、筋肉、赤血球などに多く存在。 心不全、慢性肝炎、肝硬変、慢性腎炎、悪性腫瘍などで高値となります。
	AST	10-40		U/L	肝細胞、筋肉、赤血球からの逸脱酵素。 肝臓の疾患や心筋梗塞、溶血性疾患などで高値となります。
	ALT	5-45		U/L	肝細胞からの逸脱酵素。 肝臓や胆道系の疾患で高値となります。
	γ-GT	79以下	48以下	U/L	肝臓や胆道系に存在する酵素。 アルコール性肝障害、薬物性肝障害、閉塞性黄疸、胆汁うっ滞などで高値となります。
	アンモニア	18-70		MCG/DL	蛋白質の分解産物。肝臓で無毒化されます。 肝障害で高値、低蛋白食、貧血などで低値となります。
心機能	CK (CPK)	50-230	50-210	U/L	筋肉に多く含まれる酵素。 心筋梗塞、心筋炎などで高値となります。
	トロポニンT	(-) 0.016以下		ng/ML	心筋の構成成分の1つです。 急性心筋梗塞などで高値となります。
膵臓	アミラーゼ	39-134		U/L	膵臓や唾液腺から分泌される消化酵素。 膵炎や耳下腺炎などで高値となります。
脂質	総コレステロール (T-CHO)	150-219		mg/dl	コレステロールの総量。 高値では動脈硬化などの疾患を引き起こしやすくなります。
	中性脂肪 (TG)	50-149		mg/dl	中性脂肪の量。食後上昇します。 高値では動脈硬化や心筋梗塞の危険因子となります。
	HDL-コレステロール (HDL-Cho)	40-80	40-90	mg/dl	善玉コレステロールと呼ばれ、低値では動脈硬化になりやすくなります。
	LDL-コレステロール (LDL-Cho)	70-139		mg/dl	悪玉コレステロールと呼ばれ、高値では動脈硬化になりやすくなります。
腎機能	尿素窒素	8.0-20.0		mg/dl	腎機能の評価に用いられます。 腎機能障害、腎不全などで高値となります。
	クレアチニン	0.65-1.09	0.46-0.82	mg/dl	
	尿酸	3.6-7.0	2.7-7.0	mg/dl	プリン体の分解産物。 痛風や腎機能障害などで高値となります。

	項目名	基準値		単位	説明
		男性	女性		
電解質	ナトリウム	135-145		mEq/l	腎不全、肝硬変、嘔吐後などで低値、嘔吐・下痢などの脱水で高値となります。
	カリウム	3.5-5.0		mEq/l	下痢や嘔吐などで低値、腎機能低下で高値となります。
	クロール	98-108		mEq/l	腎不全、肝硬変などで低値、嘔吐・下痢などで異常値となります。
	カルシウム	8.6-10.2		mg/dl	慢性腎不全、ビタミンD欠乏、副甲状腺機能低下症などで低値、副甲状腺機能亢進症、悪性腫瘍、ビタミンD過剰などで高値となります。
炎症	CRP	0.30以下		mg/dl	炎症や組織破壊病変の有無を調べます。感染や外傷、悪性腫瘍、膠原病などで高値となります。
糖代謝	血糖	70-109		mg/dl	血糖は、血液中に含まれるブドウ糖の量を示しています。HbA1cは過去1~2ヶ月の平均血糖値を反映しています。糖尿病の診断や重症度、血糖コントロールの評価に用いられます。
	HbA1c (NGSP)	4.6-6.2		%	
血球検査	白血球数	3500-9700		/ μ l	感染症を含む炎症や血液疾患の診断と経過観察のため測定します。感染症や自己免疫疾患などで高値、血液疾患では増減します。
	赤血球数	438-577	376-516	$\times 10^4$ / μ l	貧血、多血症の診断と経過観察のため測定します。ヘモグロビンは赤血球の中にある酸素を運ぶ蛋白質です。ヘマトクリットは血液中に含まれる赤血球の割合です。これらが高いと多血症、低いと貧血といえます。
	血色素量	13.6-18.3	11.2-15.2	g/dl	
	ヘマトクリット	40.4-51.9	34.3-45.2	%	
	MCV	83-101	80-101	fl	MCVは平均赤血球容積、MCHは平均ヘモグロビン量、MCHCは平均ヘモグロビン濃度を表します。貧血の種類を鑑別します。
	MCH	28.2-34.7	26.4-34.3	pg	
	MCHC	31.8-36.4	31.3-36.1	%	
	血小板	14.0-37.9		$\times 10^4$ / μ l	血小板は血液凝固や血管修復の役割を担っています。多いと血栓症や出血リスクが、少ないと出血リスクが増加します。
凝固・線溶系検査	プロトロンビン時間 (PT)	10.0-13.0		秒	出血した時の血液の止まり具合を調べる検査です。肝障害、ビタミンK欠乏症、抗凝固剤の使用などで延長します。
	APTT	26.0-38.0		秒	
	フィブリノーゲン (FIB)	170-410		mg/dl	血液凝固に関与する蛋白質です。感染症や悪性腫瘍などで高値、肝障害などで低値となります。
	FDP	10以下		MCG/ML	FDPは血管内にできた血栓を溶かす時にできる物質です。D-ダイマーはFDPのうちの1つです。血栓症、心筋梗塞、肝硬変、悪性腫瘍などで高値となります。
	D-ダイマー	1.0以下		MCG/ML	

	項目名	基準値		単位	説明
		男性	女性		
感染症	HBs抗原	(-)	0.03未満	IU/ML	B型肝炎ウイルスの感染の有無、治療効果判定のため測定します。
	HCV抗体	(-)	1.0未満	C.O.I	C型肝炎ウイルスの感染の有無がわかります。
	HIV抗原抗体	(-)	1.0未満	C.O.I	陽性ではヒト免疫不全ウイルスによる感染症を疑います。
	TP抗体	(-)	1.0未満	C.O.I	梅毒の診断を目的として測定します。
	RPR	(-)			2つの検査を組み合わせて、梅毒に感染しているか、過去に感染したことがあるかを判断します。